

リスクコミュニケーションのあり方に関する勉強会 今後の論点

【整理にあたっての考え方】

- ◇本勉強会では、食品安全全体のリスクコミュニケーションを議論することを基本とし、実際の効果や評価を考える際には、リスク評価機関として行うに当たってはということを議論する。
- ◇リスクコミュニケーションは難しいという共通認識を前提とする。
- ◇リスクコミュニケーションには、背景に哲学があるものだが、それを踏まえてリスクコミュニケーションという文化をどうやって醸成させていくのか、食育等の周辺活動も含めて包括的に考えていく。
- ◇リスクコミュニケーションについて、過去の事例に振り返り、見直しを行っていく。
- ◇リスクコミュニケーションのターゲット、リスクコミュニケーションの要点、リスクを感じやすい認知の仕方等は他でまとめられているので、それを再度整理する。

【各論】

- ①リスクコミュニケーションの現状についての認識
- ②リスクアナリシスにおけるリスクコミュニケーションの位置づけ
 - ・リスクアナリシスの考え方の普及
 - ・リスクコミュニケーションの方針
 - ・リスク情報の提供方法
 - ・コスト・ベネフィットの考え方の浸透
- ③リスクコミュニケーションの目標・評価
 - ・リスクコミュニケーションの目指す方向
 - ・時間軸も考慮した多様な評価
 - ・目標設定・評価の考え方
- ④リスクコミュニケーションのコスト
- ⑤ステークホルダーの役割
 - ・消費者の役割
 - ・サイレントマジョリティー
 - ・企業の役割
 - ・マスコミの役割
 - ・科学者の役割
- ⑥安全教育、リスク教育
 - ・安全教育、リスク教育
 - ・誇大な表示
 - ・ネガティブ情報
- ⑦リスクコミュニケーションの担い手

☆クライシスコミュニケーション